

やさしいナースになるための スマイル通心

2020年1月 115号

あけましておめでとうございます

本年もどうぞよろしくお願いたします。



「個人情報」とは

生存する個人に関する情報であって、氏名・生年月日・住所等で特定の個人を識別できる情報をいいます。

＜医療機関における「個人情報の例」＞



診療録・処方箋・手術記録・看護記録・
検査所見の記録・レントゲン写真・紹介状
診療経過のサマリー・調剤録などです。



医療現場には、慎重に扱う必要のある個人情報がたくさんあります。

いかなる場合でも知りえた情報を漏えいすることは禁止されていますが
思いがけない場面でうっかり個人情報を漏らしてしまっているかもしれません。

過去の個人情報漏えい事故の事例

- ・患者の情報が入ったパソコンが自宅で盗まれた。
- ・病歴室から借りた入院カルテを机の脇の床に置いておいた。
清掃職員がゴミと勘違いし焼却処分してしまった。
- ・患者の氏名、疾患名などを記載した手書きメモを私物のバックにいれていてバックごと盗まれた。

では、私たち医療従事者はこういった点に気を付けなければいけないのでしょうか？



Check!
☝

ナースステーション

当院では、透析室・病棟ともに開放的なオープンカウンターになっていて患者さんやご家族、お見舞いの方に常に見られるようになっています。患者さんの病名や病状を外部にもらさないよう声の大きさや会話の内容に気を配るようにしましょう。

SNSのマナー

病院に限ったことではありませんが、職場の情報・状況など仕事に関する事を許可なく投稿するのは基本的にNGです。職場で撮影し投稿した写真の背景に患者さんの個人情報が出ていた・・・というような事を防ぐため控えましょう。位置情報などから第三者に特定されることもあるみたいです。

USBメモリの紛失

情報を持ち出す場合は、盗難、紛失、置き忘れ等のリスクが大きくなることを十分理解してください。特にUSBメモリの紛失等の事故は少なくありません。



医療機関の職員の周りには個人情報があふれています。職員はそのことを常に意識して自覚することが重要です。



スマイル通心2020年1月号

あけましておめでとうございます。

今月のテーマは、「個人情報」についてでしたがいかがだったでしょうか？

みなさんは、個人情報をきちんと管理できていますか？

故意に情報を漏らそうと思っていなくても結果的に情報が第3者に漏れてしまうというケースはあるのではないのでしょうか？

例えば、

- ・ 申し送りの声が大きく、廊下を歩いている方にも聞こえてしまう。
- ・ 廊下や階段の踊り場などで、スタッフ同士で患者さんの情報を話し、第3者に聞こえてしまう。
- ・ 患者さんの情報を職場の仲間とのラインで情報交換をして第3者に知られてしまう。

また、患者さんだけではなく、職員の個人情報保護にも気を付けて欲しいと思います。

例えば、

患者さんから「〇〇さんって結婚しているの、お子さんは？」

「〇〇さんこの前、〇〇で見かけたけどあの辺に住んでいるの？」

「最近〇〇さん見ないけどどうしたの？」などなど…。

この程度の事を教えてかまわないだろうと思い患者さんへ教えてしまう方や自分自身は患者さんへ話して欲しくないと思い教えない方と職員の方もそれぞれ考え方が違います。



自身の事を聞かれて答える分は、ご自分で判断して話すことができますが、他人の事を聞かれた場合は、相手の方の意思が確認できない場合は、「良く知らないです、今度、ご本人に聞いてみてください」と上手に受け流しましょう。

個人情報を漏らしているつもりが無くても、知らず知らずに漏洩している可能性があることを再認識し個人情報が漏洩しないよう、日頃から気を付けていきましょう。

看護部長 渡辺 千代子